

古域

第 40 号

＝発行者＝
茨城県立江戸崎総合高等学校
同窓会広報委員会
TEL 029-892-2103
＝印刷所＝
倉沢印刷株式会社

ごあいさつ

【三つの化粧品】



同窓会長
山岡 恒 夫
(昭和43年度卒)

会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃からの、会員の皆様方の同窓会に對しましてのご協力に心から感謝いたしております。

五十年も昔のことになりましたが、江戸崎高校の体育館で生徒だった私は『泥かぶら』という劇を観ました。

あるところに、一人の醜い女の子がおりました。蕪のような顔の造作で薄汚く、両親もいないこの子は、村の悪童たちからも「泥かぶら」とはやされ、いじめられ、それに腹を立てて立ち向かい、顔は

酷くなる一方でした。

そんなある日、一人の旅の老人が、通りがかり、暴れている泥かぶらに言いました。

おじいさんの言う三つのことを実行すれば、村一番の美人になるよ。それは、

・いつも、につこり笑うこと
・人の身になって思うこと
・自分の顔をはじないこと

その日から、美人になりました。一心で、泥かぶらの自分自身との大変な戦いが始まりま

す。そして、何を言われてもニコニコしている泥かぶら、喜んでお使いをし、子守をする泥かぶらは、いつしか村の

人気者となり、村の人々に愛される女の子になりました。

村に人買いがやって来て、借金のかたに、村一番の器量

よしの娘を連れて行こうとします。泣いていやがる娘と、泣いて詫がる親の姿を見た泥

かぶらは、進んで身代わりになります。そして泥かぶらは、村での楽しかった生活、かわ

いい子供たちの話を明るく語り、人買いの肩を揉んでやつたり、食べ物と調えてやつたりするのでした。

泥かぶらの笑顔と優しさ、その信じ切った姿に、人買いの心はいつしか動かされていきます。

ある朝、泥かぶらが目を覚ますと、人買いの姿はなく、そこには一通の書き置きが残されていました。

その手紙には、「ありがとう。ほとけのように美しい子よ。」

と書かれてあったのです。おじいさんの言葉の通り、泥かぶらは村一番の美人になったのでした。

きれいさはお金で買うことが出来ませんが、美しさはお金で買うことは出来ません。

美しさは、自分の欲求や劣等感と戦う中で磨かれます。

会員各位の、各方面での今後ますますのご活躍と、母校の発展と飛躍を祈念いたします。ご挨拶といたします。



在校生の活躍

◆地域イベントに参加◆

十一月三日(金)の稲敷市文化祭、十一月十九日(日)の綱引き大会にて、農業クラブ・ボランティア委員・生徒会・吹奏楽部が会場を盛り上げました。



◆教育長表敬訪問◆

十月二日(月) お米甲子園特別賞受賞・シャインマスカット栽培等を報告しました。



◆農業女子プロジェクト◆



阿見町×井関農機×東京農大連携事業の「農業女子プロジェクト」に参加しました。



地域と共に

歩む江総高


 校長 昭男
(昭和52年度卒)

同窓会の皆様には日頃より本校の教育活動に多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。茨城県立江戸崎高等学校、茨城県立江戸崎西高等学校が統合され、平成二十六年十一月十五日(土)創立十周年記念式典を挙行し、本校は十三年目の総合学科設置高等学校となりました。現在、一年次で共通の必修科目を学び、二年次以降に生徒の適性や希望に応じて、人文科学系、自然科学系、グリーンテクノ系、メカニカルテクノ系、福祉系の五系列で、多様且つ専門的な知識を習得することになります。

本校の伝統である農業系列では、農業従事者の高齢化や新規就農者の減少が日本における農業の現状ですが、農作物の栽培や販売を通して、地域の皆様と関わりが持てることは生徒達にとっても大変貴重な体験であり、今後地元に

貢献するための第一歩になるよう期待いたします。

部活動では、馬術部が個人で全日本高等学校馬術選手権に出場し、国体個人でも少年部二段階障害飛越競技でも準優勝を飾り、バスケットボール部男子は強豪の県南地区新人戦で優勝し、二年続けて県大会出場が決まりました。吹奏楽部は地域を中心に演奏の機会を頂いております。

今年、県教育委員会教育長への表敬訪問も実現し、生徒二名と共に江総高をシャインマスカットやコシヒカリ等でPRをして参りました。

地域連携事業では、稲敷市青少年主張に二名の生徒が出場し、合わせて草花プラントの設置、コサージュ作成でも協力をしました。

進路面では、稲敷市、稲敷郡、県南地区を中心とした就職内定者が昨年に続き百名を超えております。

会員の皆様方には今後とも本校が稲敷に存在する唯一の県立高等学校として、地域に根ざし、共に歩み、伝統や歴史を踏まえ更なる発展がみられますよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。

思い出することなど


 顧問 大鳥居良行
(昭和34年度卒)

今年のノーベル文楽賞は日系イギリス人のカズオ・イシグロ氏が受賞した。

私が初めて出会った作品は「日の名残り」で十年ほど前になる。その後、処女作「遠い山なみの光」は翻訳が大学一年時の先生だったので大変驚いた。

敬慕する元主人や同じ執事をしていた父親への思い、女中頭への淡い思いなどを織り交ぜ、心模様が描かれている。この作品もそうだが彼の初期の三作品は戦争が見え隠れし、戦争という不条理の中で生きる人間を描いている。

ところで、私が学生だった頃はまだ戦後が残っていた。大学はどこも学園紛争が活発で、デモの参加で少なくなつた教室では、先生から英文の質問攻めに遭い汗をかいいたのも懐かしい思い出である。実はイシグロ作品も自分の多感な時代と重ねて読んだ。

日本でも戦争をテーマに人間を描いている名作は多いが、彼の作品は戦争そのものの場面設定ではなく、戦争に左右され微妙な陰を背負って生きる人々を描いている。

話は飛ぶが、私はこれまで江戸崎総合高校で、道徳の授業を何度か参観させてもらった。そこで思ったことは、複雑化する国際社会を生きる生徒たちは、これらの作品とも無縁ではないことである。

故郷を思う


 参事 安田克久
(昭和41年度卒)

地域の皆様、そして同窓会の皆様に温かいご支援を賜り、本年度五月より稲敷市長三任期目に就任させていただいております。

心から御礼申し上げます。市長就任以来、市内を回る機会が多くなりましたので、古き良き友人に会うことが増えました。互いに年を重ね、姿は変わりましたが、会って交わす言葉は昔のままで、とてもなつかしく、温かい気持ち

ちにさせてくれます。

私が過ごした高校時代は、高度経済成長期の真っ只中で、社会全体が成長と活気に満ちている時代でした。

しかし、現在の日本は、人口減少、少子高齢化など将来が見えない、不安の多い社会と言われており、稲敷市もまた、同様の課題を抱えております。このまま、現在の傾向が長期化すれば、市の活力が低下するばかりでなく、地域社会の存続すら危ぶまれるなど、まちづくりは大きな転換期を迎えております。

これからは、霞ヶ浦を始めとした豊かな自然環境や、国央道が開通した地域のポテンシャルを活かし、市民一人ひとりが主役となって、また、行政は総力をあげて、稲敷市が「みんなが住みたい素敵なまち」になるよう、まちづくりを進めてまいります。

皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、これからも本校が、地域に根差した特色のある学校として、さらなる発展を遂げられますことと、会員の皆様のご多幸とご活躍を心よりご祈念申し上げます。

水戸支部総会を開く



水戸支部長
高木 昂
(昭和28年度卒)

平成二十九年七月九日(日) 水戸市大工町「ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸」に十一人が集い、水戸支部総会(支部長:高木 昂)を開いた。久しく集うことなく過ぎ、怠慢のそしりを免れないところ、統合十周年記念版会員名簿発行を機に、水戸支部地域(旧東西茨城郡以北)在住卒業生約百五十人に案内した。当日は、山岡恒夫本部会長の来席を得て、丁寧な祝辞をいただき、また、支部長として長年開催しなかったことを詫言したが、これから毎年開催しようということとなり、役員など改めることなく留任、出席者全員が、在校当時の思い出、卒業後の体験、近況などを話して、再会を誓い散会した。

で、お祝いのメッセージを送っていた。翌日、母校の勝利を拝承、上位進出を祈る旨告げた。歓談の様子など逐一報告したいところ、出席者氏名(卒年・科)記載により割愛させていた。〈敬称略〉

山岡恒夫(昭44農)、野口泰男(昭26農)、安浩志(昭29普)、高木昂(昭29普)、高嶋伸行(昭29普)、野口芳男(昭30普)、関口征二(昭33普)、道川敏子(昭38普)、根本太郎(昭47普)、斎藤卓子(昭48普)、沼崎潔(西昭55B)、以上、十一名。

＊戦後72年に思う＊

太平洋戦争終結の日、昭和二十年(一九四五年)八月十五日、以来72年間、日本国は平和を保つてきている。

最近、隣国からミサイルが飛び、核実験が行われるなど国家安全保障について議論が交わされている。戦争経験者が少なくなっている今日、同窓会名簿の物語者欄に、戦塵に散った先輩がいることを忘れてはならないと思う。

また、生還した先輩兵士の体験談は胸を突くものがある。

南太平洋戦地ペリリュー島から生還された山口永先輩(昭14農・平成27年5月25日



竹内 大 晶
(平成28年度卒)

思い出の学舎



この江戸崎総合高等学校で三年間で、私は数多くの経験をすることが出来ました。

死去94歳)が、米軍の猛攻撃をくぐりぬけ、日本の敗戦を信じられず、洞窟に潜み、二年後、アメリカ軍や日本政府の呼び掛けに応じた場面が、先日上映された映画「追憶」に映し出されていた。

まず部活動では、写真部に所属し部長を務めました。活動は非常に充実しており、他の部員と楽しく活動できました。特に、笠間市まで写真撮影に行ったことは、心に強く残っています。

また、学習においては、大学進学に向けて、多くの努力を重ねてきました。

そして、その努力が実り、目標であった国立大学への合格を果たせました。ここまで頑張ることが出来たのは、先生方や友人、家族など周りの人達の支えがあったからです。これらの思い出は、私が辛いことに向き合った際の糧となっています。

現在、私は大学で様々なことを学んでいます。大学生活は、これまでとは環境が変わり、大変なことがたくさんあります。しかし、これ以上に楽しいこともあります。

このような刺激的な毎日、私に成長する機会をあたえてくれます。これからも、この学校で学んだことを胸に頑張っていこうと思います。

最後に江戸崎総合高等学校の益々の発展をお祈り申し上げますと共に、同窓会の皆様職員や生徒の皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。



この度、茨城県立江戸崎高等学校三年B組昭和五十年三月卒業生(第二期生)のクラス会を平成二十九年九月十七日(日)に開催しました。会に先立ち、今回江戸崎高等学校校跡地記念碑前で記念撮影する予定でしたが、当日はあいにくの雨でしたので記念碑のみの撮影となりました。

参加者は担任の殿内先生を含め十四名(先生一名、男性七名、女性六名)と少人数でしたが、とても有意義な、そして楽しいクラス会でした。また皆様にお会いできる日を約束して散会となりました。ありがとうございました。

クラス会開催

同窓生は今

現代の名工



植武 春彦
江戸崎高等学校
(昭和56年度卒)

表彰状

植武 春彦 殿

あなたは卓越した技能をもつて労働者の福祉の増進及び産業の発展に寄与し技能者の模範と認められるので卓越技能章を授与して表彰します

平成二十八年十一月二十一日

厚生労働大臣 塩崎 恭久

昭和五十七年三月、江戸崎高等学校農業科を卒業して今年で三十五年になる大先輩。卒業と同時にキャノンに入社。当時、出来たばかりの阿見工場に配属され治具研削盤工として働き始めました。キャノンの求人に対し「名の通った会社だからいいな」という軽い気持ちで入社。仕事に使う工具でさえ初めて見るものばかりだった。同期入社の人達のほとんどが工業高校卒で機械器具類の取扱には慣れているのか仕事の習得が早く、追いつくのに一年かかってしまった。とにかく理論的な物は判らず、みんなが三ヶ月で出来るところを二三年かかった。それでも懸命に仕事に励み、昇進試験をクリアするために勉強も頑張った。入社して五、六年がたった頃、測定のテストが行われ全部で百名ぐらいの中で四番目の成績であった。ここで確実に上達したのを実感した。その後、金型部品の測定精度では指導員を上回るほどの仕事をするようになり次第に自信となっていた。これはただ単に視力が良いだけでなく、手先の器用さと負けず嫌いの性格も加わり感



性が研ぎ澄まされて、機械以上の正確無比な仕事が出来るようになっていたのだ。仕事を始めて十年を過ぎた頃には社内でも「あいつの仕事は凄いぞ」と一目置かれるようになっていった。当初はカメラやプリンター、ファクシミリ等の精密な金型部品を扱っていたが、人工衛星に搭載する超精密部品の加工に携わるようになる。これは一ミリの千分の一の精度を要求される(記号で書くとμm(マイクログラム))。途方もない依頼であったが、絶対的な自信を持って納品した。しかし、納品先から精度不良のクレームが入った。それでも「自分の仕事に間違いはない」と言い切った。結局、最先端の精密測定器がデータを読み違えていて全てが良品であった。これが今回、厚生労働省が

平成二十八年度の卓越した技能者(現代の名工)に選ばれた。今回、表彰の対象となるのは、機械器具組立・修理、金属加工、衣服の仕立、大工などの職業を分類した全二十部門の技能者である。植武さんが受賞した金属加工部門は1μmを百発百中で仕上げる技能に対して推薦され受賞されたものである。その技能は、視覚判断の限界である1μm以下の超高精度を目ではなくヘッドフォンで研磨音を聞き分けることによって判断し仕上げるという、まさに神業的な技能である。今の植武さんの肩書きは、経営管理センター技能伝承部、技能育伝推進課長(名匠塾長)とある。大変重要な役割を担いつつ、技能と心を併せ持つ若手技能者を指導育成している。

同窓生は今

女流浪曲師として

女流浪曲師 国本はる乃

(本名・木村はる乃)

浪曲界で最年少だが、芸歴は十二年の腕前である。

「若い人にもっともつと浪曲を知ってほしい」

平成生まれの若き浪曲師は、師匠である国本晴美さんの息子で、今は亡き国本武春さんの「浪曲の世界にもスターが

木村はる乃
江戸崎総合高等学校
(平成25年度卒)

いないと駄目」との言葉を胸に、浪曲界を盛り上げようと意欲を燃やしている。

浪曲とは三味線の伴奏に合わせて物語を展開していく大衆芸能のひとつである。

明治初期に始まったとされ、浪花節とも呼ばれる。

物語や登場人物の心情を歌詞にした「節(ふし)」の部分

と、人物のセリフにあたる「啖呵(たんか)」で構成される。

はる乃さんが弟子入りしたのは九歳のときだった。師匠である国本晴美さんは父親の悟さんの知人だった。

学校に通いながら週に一日二時間の稽古を続けた。

この弟子入りをめぐってはちよつとした裏話がある。

はる乃さんは三味線を習いにいったつもりだった。

ところが晴美さんから「手が小さいから、歌から始めようか」と言われ、浪曲の台本を手渡されたという。

最初はなかなか浪曲を好きになれなかったが、半年後、成田山新勝寺(千葉県成田市)で初舞台を踏み、才能の片鱗(へんりん)をのぞかせた。

江戸崎総合高等学校を卒業後(平成二十六年三月卒業)、都内にある浪曲専門の演芸場『木馬亭』で前座を務めている。舞台に上がる以外は掃除などの雑務や稽古、先輩浪曲師の手伝いをする日々だ。

晴美さんは弟子のはる乃さんについて「節もきまっています、これからが楽しみです。浪曲界を背負って立つ存在になってほしい」と期待する。

五十五歳の若さでこの世を

去った先輩浪曲師の武春さんもまた、はる乃さんの良き理解者だった。

生前、舞台で三味線の伴奏をしたり、アドバイスをしてしてくれた。

一本立ちする日に木馬亭で開く「お披露目興行」のプログラム作りもしてくれていた。

はる乃さんは言う。「国本の名に恥じないよう、

そして武春師匠が空から見守っていると思い、笑われることがないように浪曲を演じていきたい」

前回の江戸崎総合高等学校同窓会代議員総会議演会では、母校の大会議室で諸先輩方を前に堂々と啖呵を切るはる乃さんは格好良かった。

今後益々のご活躍を！



第111回 同窓会代議員総会議演会

校内だより

平成二十九年度を
振り返って

渉外部長 河原井勝弘

一番大きな行事は、九月に行われたPTA指導者研修会でした。本校が担当校で、準備から運営、報告書の作成まで会長をはじめ役員の方には大変お世話になりました。

講演会では、前例のない音楽家の演奏が入り、講演というより、演奏会のような雰囲気になりました。しかし、これがアンケートを見てみると、意外に好評でした。

言葉だけで訴えるより、音楽を通して、講師の伝えたいことがよく伝わる講演会でした。日本でもトップクラスのサックス演奏を聴くことができ、皆さん感激していました。その講師の「若いうちに一流のものに触れさせることが、才能を伸ばすことにつながる。」といった言葉が印象的でした。次に文化祭です。今年是一般公開でしたので、来場者が多く、四百食のカレーが午前中に売り切れてしまうほど盛況でした。この行事も、役員

の方が平日夜遅くまで打合せをして、模擬店の企画を進めてきました。会長を中心に、チームワークのよいPTAで、これからもこの伝統を引き継いでいきたいと思います。最後に、同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念するとともに、今後ともご支援・ご協力の程、宜しくお願いいたします。

生徒指導縦感

生徒指導部長 石塚 武志

長い人生の中で、高校三年間をこの江戸崎総合高校で過ごすことに、どの様な意味があるのでしょうか。

一人の人間がもう一人の人間に出会う確率は、地球全体では六十数億分の一、日本だけ考えても一億二千万分の一です。友人や先生方との出会いが偶然で素晴らしいことだとよく分かると思います。

卒業すると同窓会の一員として、各界で活躍の先輩の皆様と仲間になります。

生徒諸君が稲敷の地で成長することは、人とのつながりという大きくて深い意味があるのです。

るのです。

生徒指導担当として常に思うことは、大切な生徒を江戸崎総合高校の卒業生として、稲敷の出身者として、どのような世界に出て誇り高く、いつも輝いている人材に育てたいということです。

そのためには、挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣を生徒に身に付けさせ、人との出会いを大切に、心が温かくなるような指導を継続してまいりたいと考えています。

同窓会の皆様におかれましては、今後も変わらず生徒の生活指導に、ご理解とご支援をお願い致します。

今年度の取組について

進路指導部長 森田 繁

平成二十九年度の進路指導に関する取組をお知らせします。本校では「一人ひとりの進路希望が実現できる規律ある学校」を基本的な考え方に据え指導にあたっております。具体的には次の三つの柱を掲げて教育活動を展開しています。

■検定受検・資格取得の奨励
本校では、各年次において検定試験の全員受検に取り組

んでいます。三年間継続して受験することで、生徒の一人ひとりが卒業するまでに少なくとも一つの資格取得することを目指しています。

今年度は、漢字能力検定、硬筆書写技能検定、語彙・読解力検定、実用英語技能検定、二ユース時事能力検定を年次ごとに選択して受験しました。この検定試験全員受検については、知識を習得できることはもちろんですが、加えて資格取得に向けた取組やその過程での努力する経験を大切にしたいと考えています。

■義務教育段階の学び直し

本校では、国語・数学・英語の基礎的、基本的事項を授業その他の時間を活用して学び直しを行っています。

■個別指導の充実

本校の多岐にわたる進路希望を実現するために、国公私立大入試対策、医療看護系入試対策、就職試験対策など進路希望先に合わせた個別指導の充実を図っています。

様々な方々の関与が生徒の成長を大きく促し、高い教育力につながるものと考えていますので、今後とも同窓会員みなさまのご協力をおねがいいたします。

平成二十九年度 進路状況



主な進学先

流通経済大学
江戸川大学
千葉工業大学
筑波学院大学
つくば国際大学
川村学園女子大学
常磐大学
千葉経済大学
聖学院大学
つくば国際短期大学
関東職業能力開発大学校
茨城県立農業大学校
県立土浦産業技術専門学院
土浦看護専門学校
宮本看護専門学校
アール医療福祉専門学校
江戸川大学総合福祉専門学校
筑波研究学園専門学校
つくば栄養医療調理製菓専門学校
いはらき動物専門学校
つくばビジネスカレッジ専門学校
アジア動物専門学校
鯉沼学園農業栄養専門学校
日本自動車大学校

他六校

主な就職先

自衛隊
江戸崎カントリー倶楽部
フジシール筑波工場
SHOEI茨城工場
美浦ゴルフ倶楽部
ネスレ日本
芳源マツシユルム
つくばセントラル病院
筑波工業
王子コンテナー霞ヶ浦工場
野村鋼機
DNPデータテクノ
ヒューテックノオリン
原製作所
三宝ゴム工業茨城工場
土浦カントリークラブ
東洋エアゾール工業筑波工場
日本食研ホールディングス
寿商事(オートバックス事業部)
アイリスオーヤマ
城東テクノ
関東情報サービス
日本郵便関東支社

他五十七社

(平成二十九年十二月十二日現在)

メカニカルテクノ系列

メカニカルテクノ系列主任

仁林 拓也

ここ数年でメカニカルテクノ系列の実習内容が変わってきています。「メカニカル」の言葉が表すように、今までは「機械や自動車」ばかりの

内容でしたが、この基本的な部分を残しつつ、実習全体の見直しを行い、総合学科でしか出来ない工業高校とは違った取り組みを始めています。そのひとつが、近隣の事業所から要望の多かった「電気」のわかる生徒です。これに出来るべく、電気工事士の資格取得への取り組みを数年前から始めています。

その他にも、生徒・保護者のニーズの多様化に対して、「興味を持てるように」、「将来役に立つように」と毎年見直し変更をおこなっています。特に、自動車に関しては「整備士」の取得とは別に、日常点検や簡単なメンテナンスなどの軽作業の分野を充実させて、卒業後もこの地域では欠かすことの出来ない自動車に關して困ることのないようにしています。

さらに、現在の流行なのか、来年度はメカニカル系列に女子が十数名在籍することとなり、工業系女子のための新しい取り組みをする予定で現在模索しています。

最後に、教員も多数入れ替わり、至らぬ点が多いと思いますが、今後も同窓会の方々にはご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

各年次だより

一年次だより

一年次主任 寺口 慎吾

四月に真新しい制服を着て緊張しながら入学してきた新入生は、あれから八ヶ月が過ぎた今、だいぶ学校生活にも慣れたようで、生き生きとした表情で授業を受ける姿や、クラスマッチや文化祭などの行事に積極的に参加する姿がみられるようになりました。

特に、今年度は一般公開であった文化祭は楽しかったようで、夢中で準備するがあまり真新しかった制服や上履きにペンキの染みをつくってしまった者も何名かいた様です。そのような何事にも一生懸命な一年次生の中から、三名の生徒が生徒会役員に立候補し、次期生徒会役員を務めることになりました。

総合学科の本校では、二年次から各系列に分かれていきます。一年次生は系列を選択するために、希望する系列ごとに企業や大学、専門学校等への見学会を行い、校内では各系列ごとの模擬授業や体験

実習を行いました。生徒達は真剣に将来について考えた上で系列を選択していたようです。男子生徒ばかりのイメージがあるメカニカルテクノ系列ですが、十四名の女子が入る予定です。やる気のある生徒ばかりなので、どのように成長していくか楽しみです。

二年後には自らの進路を選択し、社会と関わりながら人生を歩んでいかなければならないわけですが、私達の仕事は、生徒達が人生を逞しく生き抜いていくための力を養う手助けを少しでもさせていたいくことだと思っております。同窓会の皆様には、二年後に希望を持って地域に羽ばたいていくであろう卒業生を、温かく見守っていただき、ご指導・ご助言を頂ければと思います。

最後になりましたが、日頃の同窓会の皆様はじめ地域の皆様のご支援とご協力に感謝し御礼申し上げます。そして、これからもよろしくお願い致します。



中堅学年として

二年次主任 茂木 孝允

後期に入り、江陵祭や修学旅行などの大きな行事が続きました。普段の学校生活ではできない経験をたくさん積み、少しずつでも生徒が成長できよう、我々も日々奔走しております。

高校生活の折り返し地点を過ぎましたが、二年次は未だ高校生としての自覚が足りない生徒も多く、特に生活面ではまだまだ厳しく指導していかねばならないと感じています。また、二年次からは各系列に分かれてそれぞれの専門分野を学ぶ時間が多くなりましたが、進路に対して意識が低い者も少なくありません。そのような現状も踏まえ、希望者を対象にしたインターンシップや、数回の進路ガイダンス、また企業の方をお招きしての講演会や、三年次の先輩達から話を聴く機会など、様々な行事を企画し、自己実現に向けてより良い選択ができるよう、今後も働きかけていきたいと思っています。

このような取り組みもその他学校活動も、保護者の方々、地域の方々のご理解とご協力

があつてこそ実現できていることだと思ひます。生徒達の成長のため、また江戸崎総合高校の発展のため、今後も変わらぬご支援をお願いするとともに、同窓会の今後益々のご活躍をご祈念致します。

充実の日々

三年次主任 石澤 真

三年前に本校に赴任し、一年目はクラス担任として、二年目以降は年次主任として生徒と向き合い、その成長を見守ってきました。精神的な幼さを露呈する場面も多くあつた二年次までに比べ、さまざまな場面で大人の対応ができるようになってきたと実感しております。

三年次としては生徒のコミュニケーション能力を向上させ、円滑な人間関係を構築できる人材の育成を目標に日々の指導に当たって参りました。まだまだ不十分なところはありますが、そのような生徒がだいに増えてきたように感じます。進路選択においては、改めて今の自分としっかりと向き合い、未来の自分の姿を重ね合わせながら、主体的に自らの道を模索している様子が多く見られるようになり、今

後の活躍が非常に楽しみです。

私たち教員や生徒達が充実した学校生活を送ることが出来たのも、保護者の皆様や地域の方々、そして同窓会の方々の心強い支えがあつたからだと思います。

心より感謝申し上げます。最後に、同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念するとともに、今後もご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

事業計画(案)

平成三十年度

事業名	実施予定
校内幹事会	随時
本部役員会 (本年度事業について)	七月中旬
本部役員会	九月下旬
本部役員会 (会報「古城」について)	十一月下旬
編集委員会	一月中旬
本部役員会 (代議員総会について)	二月上旬
同窓会入会式	二月下旬
卒業記念品贈呈	二月下旬
会報誌「古城」 第四十一号発行	二月下旬
校内幹事会・本部役員会	三月上旬
本部役員会・会計監査	三月中旬
第百十三回 同窓会代議員総会	三月下旬

支部長

水戸	土浦	竜ヶ崎	八原	長津	金津	源清田	長竿	生板	浮島	古渡	阿波	十島	伊崎	大須賀	太田	柴崎	牛久	阿久	舟見島	朝日	君原	安中	木原	鳩崎	沼里	高田	君賀	江戸崎
高木	猪俣	岩田	湯原	小川	藤ヶ崎	松本	諸岡	荒井	宮本	内埜	秋本	山中	根本	山口	玉造	有坂	飯田	野口	平岡	飯野	鶴野	平野	羽成	南房	宮本	岡本	朝日向	清水
忠	邦			尚	一		周	孝	和	新	精		一	勝		勝	千	俊		良	輝	勝	邦	孝	博	成	克	
昂	男	夫	坦	敏	郎	勇	示	司	昭	也	一	誠	也	夫	榮	芳	春	一	博	治	男	男	夫	一	文	美	夫	明

本部役員



会長	副会長	監事	顧問	事務局
山岡 恒夫	岡田 好夫	松本 博志	松川 由雄	及川 浩一
徳田 志廣	松田 志廣	根本 弘昭	岡田 守一	岡田 繁男
飯塚 育良	大島 居良	鳥居 裕太	水野 恵美	柱井 明美

今回の会報誌では「同窓生は今」と題して、各界で活躍する同窓生の中からお二人を紹介させていただきます。二万五千人を超える同窓生の中には、各方面で活躍する同窓生が大勢います。そんな皆さんをこれから紹介していければと思います。また、クラス会等を開催しましたら掲載したいと思ひますので写真添えて事務局まで是非お寄せ下さい。

①

編集後記



広報委員